

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 心身健康科学科

名 前 小岩 信義

作成日 2023年9月4日

1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

人間科学部心身健康科学科では、心身の健康とその背後にある複雑な相関関係を深く探求しています。この探求は、心身相関の科学とそれを支える神経科学やストレス科学の教育・研究を通じて具現化されます。具体的には、以下の科目を担当しております。

ヒューマン：いのちと健康の関係／心身健康科学：こころとからだの健康科学／ストレスと健康／からだの構造とはたらき／脳とこころの関係／心身相関の科学／伝承医学／養生訓など

これらの科目を通して、学生、大学院生たちは人間の生理的、心理的、そして社会的側面がどのように相互作用して健康を形成・維持しているのかを学び取ります。

大学院課程においても、心身健康科学専攻を担当しています。研究領域の発展のため、カリキュラムの開発と同時に、新しい研究テーマや手法の開拓・開発を積極的に進めてきました。これにより、学生や大学院生は最新の研究動向や技術を用いて、深い洞察と実践的なスキルを身につけることができます。

ストレス評価学／認知脳科学／心身機能観察特講 I／心身健康科学特殊講義／心身健康科学研究 I・II／心身健康科学特別研究指導 I・II・IIIなど

時代の変遷や新しい情報・技術が出現するたびに、私たちの教育内容も進化します。学生や大学院生が学ぶ心身の相関の科学を、時代の潮流や社会のニーズに応じて適切に更新し、微調整していくのも私たちの重要な役割として位置づけています。これにより、私たちの教育が常に最先端を行き、学生、大学院生たちが社会で即戦力として活躍できるよう育成することを目指しています。

2. 理念（教育に対する考え方）

私たちが提唱する「こころ」「からだ」「環境・社会」という三つのキーワードは、人間を包括的に捉えるための礎です。この学際的な学修・研究アプローチを通じて、私たちは学生や大学院生の皆さんたちに、単なる知識の蓄積ではなく、人間の本質に触れる深い洞察を得る機会を提供しています。

「人間とは何か」を探るためには、私たちの日常に溢れるさまざまな事象や現象をじっくりと観察し、それらから得られる手がかりやヒントを探る必要があります。たとえば、文化の中で育った私たちの「こころ」の動きや「からだ」の反応は、私たちが生きている社会や歴史的背景と深く結びついています。このような事実を通じて、私たちは自らのアイデンティティや他者との関係性を再評価し、新たな理解を深めることができます。

また、人類の歴史や生物進化を学ぶことで、私たちは過去の世代が直面した課題や人間の知恵、そして私たちの起源についての理解を深めることができます。これにより、現代の課題にもより適切で持続可能な解決策を見つけ出す手助けとなるでしょう。

私たちは、これらの学際的な視点を持ち合わせた学生、大学院生が、未来を担うリーダーとしての役割を果たすことを強く信じています。そして、新しい視点や知識、技術を習得することの価値を共有し、一緒に新しい時代の中で人間理解の探求を進めていくことを心より願っています。私たちと共に、この挑戦的な学問の旅路に足を踏み出しましょう。

3. 方法（教育方法において大切にしていること）

心身健康科学科のディプロマポリシーは「心、体、環境・社会」の統合的・学際的な視点を骨格都市としています。この核心的な理念を反映させるため、私たちは担当する科目内容全体でのアプローチや教材の選定に細心の注意を払っています。それぞれのテーマにおいて、多角的な視点からの洞察や考察を促す例や事例を豊富に取り入れており、学生、大学院生たちがこれを通じて深い学びの体験を得られるよう努力しています。

一見無関係に思える学修のテーマ同士も、異なる視点や方法でアプローチすることにより、意外なつながりや新しい発見が生まれることがあります。私たちは、このような学びの瞬間を増やすため、常に授業の内容や方法を見直し、最適化しています。

最先端のテクノロジーや科学の動向は、私たちの生活や学びに新しい風をもたらすものです。しかし、それだけに固執せず、古くからの知の蓄積や歴史的な論点も大切に取り入れることで、学生、大学院生たちには広がりのある視野と深みのある理解を持つ力を養うよう促しています。

私たちの最終的な目標は、大学の教育の核心である「人々の幸福と健康の実現」に貢献すること。そのために、学生、大学院生一人一人の独自性や能力を尊重しつつ、共に学び、共に成長していくことを重視しています。教育の現場での毎日は、学生、大学院生たちとの対話と共創の場として、私たち教育者にとっても貴重な学びの時間となっています。

4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

学生、大学院生のみなさんから頂戴するフィードバックは、私たち教育者としての成長の糧となります。数多くの科目で「熱意をもって授業をしている」との高い評価をいただくことは、私たちが正しい方向に進んでいる証と捉えています。学生、大学院生たちの熱心な学びの姿勢が私たちの熱意に火をつけ、それがまた授業のクオリティを向上させるサイクルを作り出しています。

しかし、すぐに熱くなってしまう性格のため、時折早口になってしまったり、学生、大学院生の思考整理の時間を十分にとれないことがあったのも事実です。学生、大学院生たちが自らの意見や疑問を自由に発言できるよう、より安心できる雰囲気を作ることが大切だと感じております。

今後は、授業の進行において、学生、大学院生たちの理解度を確認する時間やディスカッションの機会を増やすことを心がけます。また、質問や意見を発表する学生、大学院生たちの意欲を高めるための

環境整備にも注力していきたいと考えています。学生、大学院生一人ひとりの学びの成果が、最終的には私たちの教育成果として映し出されるため、そのための環境を最適化していく所存です。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

2023年度から2028年度の5年間を対象とした中短期目標として、以下のポイントを明確に設定いたします。

1. 知識の深化と広がり：2024年度までに、心身関連の科学を核としたAI・データサイエンス系のカリキュラムを再構築し、更に入学生を増員するよう努力します。具体的には、伝統的な研究だけでなく、現代の技術や新しい研究手法を取り入れ、それをカリキュラムに反映させることを目指します。

2. 学際的アプローチの推進：2025年度までに、人間総合科学心身健康科学研究所が拠点となり、他学部や他大学との共同研究・教育プロジェクトを2つ以上立ち上げ、学際的な視点を学びの中に取り込みます。

3. 最先端の技術との融合：2026年度までに、AI・データサイエンス等の最新のテクノロジーを用いた実験・研究手法を導入し、学生、大学院生たちが実際に最先端の技術と接触できる機会を提供します。

4. 社会への貢献：2025年度には、心身健康科学を活かした学内カリキュラムを再編し、地域社会や産業界と連携を深めるプロジェクトを実施します。学外の人々にも私たちの学びの成果を共有し、社会全体の健康の向上を目指します。

5. 社会人のリスキル、能力開発：2025年度までを目処に、ウェルネススクールを拠点にした社会人専門職向けのリスキルプログラムを編成し、「こころ」「からだ」「環境・社会」の視点と各領域の専門性を融合させた専門プログラムを東京サテライトを中心に展開します。社会人の多様性を尊重し、それぞれの学びのスタイルや興味に合わせた教育を展開します。

上記の目標を達成するために、毎年度の終わりに目標達成の進捗状況を評価し、必要に応じて戦略やアプローチを微調整していくことをコミットします。心身健康科学科の教育、研究を担当する者としての誇りを持ち、未来への投資として、学生、大学院生たちと共に前進して参ります。

【添付資料】

- ① シラバス、教学マネジメントハンドブック、学科、大学院パンフレット、委員会活動計画、報告書、授業評価アンケートなどを公開可能です。